

# 萬噺（よろずばなし）その弐

今回は「スリッパ卓球」の楽しさと、それが活用可能であることを紹介した。ここからは、心の余裕のある方のみ読んで下さい。心の余裕のない方は、この件全て読み飛ばして下さいね。それは、馬鹿らしく、アホらしい内容であるから。腹立てないでね。

<経緯>現下の日中間、日韓間には多くの問題があり、冷え切っていることは誰もが承知している。韓中間にも「北」の大きな共通問題がある。本邦も同様、大きな問題の一つとして認識しているはずである。そこで、「スリッパ卓球外交」を發起、提唱する。

<目的>先ず、民間レベルの交流から、各国間の外交閉塞感に風穴を開ける。

<主なルール：本家本元の「スリッパ卓球」のルールとの差異>

①勝敗の評価は、ラリーを長く続けた方が勝ち、相手より先にラリーが終わった方が負けである。つまり、隣の台との勝負となる。ラリーの回数は評価対象とはしない。1ゲームで決着つけるのはあまりにも酷、全3ゲーム中2ゲーム先取制も視野に入れる。

②ラリーの相手は、お互いに他国の選手であること。これが、このゲームの意図するところ（本質）である。つまり、長くラリーを続けるためには、お互いを思いやり、ボールを相手が打ち返しやすい速さ、回転、高さ、各ラインからの距離等を良く打ち合わせ、お互いに息を合わせる事が求められる。信頼関係が必要となる。そして、多少のボールの行く先のバラツキをも受け入れる寛容な精神と、対応できる技術も、同時に要求される。

③参加者国籍：日本、中国、韓国、寛大な心を以って北朝鮮も招聘する。

開催地は現時点では地政学的にモンゴルが良いのではないかと想定している。

④シングルの定義は2名1組、ダブルスの定義は4か国の4名1組となる。

各々総当たりのリーグ戦を実施し、上位4チームの準決勝からトーナメントとする。

⑤表彰：シングル（男子・女子・男女混合）各1・2・3位に金・銀・銅メダルを授与する。3位決定戦はなし。ダブルスも同様とする。国旗掲揚、国歌演奏は行わない。

Best smile（最良の微笑）賞を1名に授与する。（メダルなし賞金あり）

Great laughter（大笑い）賞を1名に授与する。（メダルなし賞金あり）

<実現の可能性と実現に向けての課題>

東アジア地区の各国家の優位性（順位付け）はさておき、それらを構成する人間を最優先に尊重する。東アジア人として、お互いに尊重し、認め合い、同じ人間として協力し、共同作業の努力の結果、その栄冠を勝ち取ることになる。選手達は、お互いに戦う相手を仲間として助け合う、くすぐったい違和感を感じつつも、無意識の内に国家間融和の感覚を禁じ得ない。こんなこと絶対あり得ない。馬鹿げた夢想である。怒らないでね。